

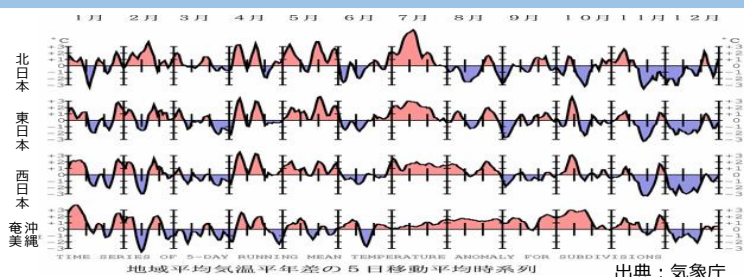
# 平成29年地球温暖化影響調査レポート（概要）

○「地球温暖化影響調査レポート」とは、都道府県の協力を得て、地球温暖化の影響と考えられる農業生産現場における高温障害等の影響、その適応策等について報告のあった内容を取りまとめたもの。（「農林水産省地球温暖化対策総合戦略」（平成19年6月策定）及び「農林水産省気候変動適応計画」（平成27年8月策定）に基づき、平成19年より取り組みを開始。）

○平成29年地球温暖化影響調査レポートの調査対象期間は、平成29年1月～12月である。

## 平成29年の気象の概要

平成29年の特徴的な天候としては、8月以降の天候不順や秋の全国的な多雨・寡照がある。沖縄・奄美では夏から秋にかけて顕著な高温状態となった。



## 発生報告の多い農畜産物における影響と適応策の実施状況

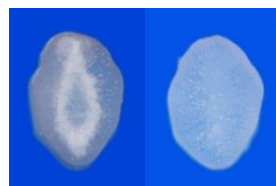
（報告単位：都道府県数）

### 水稲

【影響】西日本を中心に白未熟粒の発生等の報告があった。

（白未熟粒の発生 H28年：27件 → H29年：23件）

【適応策】高温耐性品種の作付面積は年々増加傾向にある（平成29年は全国で約9万4千ha、前年産と比べて約2千ha増加）。水管理・肥培管理といった基礎的な技術の徹底のほか、移植時期の繰り下げ等の適応技術が多く多くの県で取組まれている。また、ICT技術や気象データ等を用いた栽培管理による品質向上・高温障害対策を行っている事例の報告もあった。



白未熟粒（左）と正常粒（右）の断面

### 果樹

【影響】りんごでは着色不良・着色遅延について、うんしゅうみかんでは浮皮について報告があった。また、ぶどうの着色不良・着色遅延については、前年を大きく上回って報告があった。

（ぶどうの着色不良・着色遅延の発生 H28年：15件 → H29年：25件）

【適応策】果実の着色向上のため、ぶどうでは環状剥皮の取組、りんごでは着色優良系統の導入等の取組があった。うんしゅうみかんでは、浮皮軽減のために植物成長調整剤の散布やマルチの利用等の取組があった。



着色良好果（左）と着色不良果（右）

### 野菜

【影響】トマトで着果不良や生育不良、いちごで花芽分化の遅れについて報告があった。

（トマトの着果不良 H28年：18件 → H29年：12件）

【適応策】トマトでは細霧冷房や遮光・遮熱資材の導入の取組があった。また、いちごでは、夜冷育苗や株元冷却の取組があった。

### 花き

【影響】きくでは、開花期の前進・遅延等の報告があった。

（開花期の前進・遅延 H28年：14件 → H29年：17件）

【適応策】開花時期の変動が少ない品種の導入やヒートポンプ活用等の取組があった。

### 畜産

【影響】乳用牛では、乳量・乳成分の低下や斃死等の報告があった。

（乳量・乳成分の低下 H28年：15件 → H29年：16件）

【適応策】乳量の確保や繁殖成績の向上を目的として、細霧冷房の導入や牛体への送風・散水等の取組があった。